

令和5年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

不動寺小学校	プログラミング教育推進校	端末を活用した プログラミング体験の充実
--------	--------------	-------------------------

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 自分の考えをもつための情報活用能力の育成

各教科や総合的な学習の時間において、一人一台端末やその他 ICT 機器を活用し、導入段階を通して、既習と比較できる資料を提示したり、解決させたい事象に出合わせたりすることを通して、児童が情報をもとに根拠や理由を明らかにしながら自分の考えがもてるようにした。

- ・第5学年社会「これからの食料生産とわたしたち」

導入で食糧自給率のグラフから、主要な国々の中で日本だけが自給率がかなり低いことに気づかせ、自分なりの問いや予想をもたせることができた。また、グラフに印をつけさせたものを視覚的に共有しながら、児童の気づきや問いを交流させることで、自分の考えを再構築することにつなげることができた。

(2) 重点2 プログラミング的思考の育成

①校内研修会・研究授業の整理会等での学び

校内研修会や研究授業の整理会、職員によるレポート交流をしながら授業づくりに取りくんだ。ペアになって指示を出す児童とそれに応える児童に分かれ作図を行った。作図が苦手な児童にとって分かりやすい支援となっており、学び合うよい関わりがもてた。また、手順や結果をフローチャートで表すことで見通しをもたせたり、順序よく説明させるなど、様々な教科で実践することができた。

②第1学年 学級活動「イチゴダケで楽しくプログラミングしよう」

初めてのプログラミング体験であったため、プログラミング教育の目的や作業の進め方、操作方法を丁寧に説明をしてから指導に入った。1年生なりに、どのようにすれば自分の意図した通りに LED を点灯させたりロボットを動かしたりすることができるのか、試行錯誤するなどプログラミング的思考を高めることができた。

2 取組の検証

児童アンケートの「根拠や理由を明らかにしながら意見を表出する」という項目設問に対しての肯定的評価は87%であった。児童の様子を見ると自分に厳しく評価している児童もいる様子であったため、価値付けする必要があったと考えられる。また、教師の評価のゴールを明確にすることに課題があった。

3 成果と課題

(1) 教師による意図的で効果的な ICT 活用

ICT 活用実践の例を共有したり、相談の機会を設けたりした。どのような ICT 活用が効果的か明確にすることができた。

(2) 各教科における「プログラミング的思考」の育成

プログラミング的思考を高める授業展開を行いやすい単元から組み入れることができた。児童のプログラミング的思考が高まる活動となっているかどうかを評価し、改善を行っていく。